

# 自社開発のCAM ソフトを 新機種に適用 身の丈に合った自動化に取り組む

## OKK テクノ(株)

工作機械メーカー OKK(株)の子会社で板金製品や鋳物製品の製造を手がける OKK テクノ(株)。親会社の増産計画に呼応して製造部(板金部門)内にファイバーレーザー加工機を導入。業務の自動化を大きく前進させた。新機種導入と連動して、台車レイアウトの変更や材料棚の追加が可能な自動化システム(シートチェンジ)を採用し、工場内のスペースを有効活用。自社開発のCAM ソフトを新機種に移植して、既設のCO<sub>2</sub>レーザー加工機と同じオペレーション環境を確保するなどの工夫も凝らした。「これからも身の丈に合った自動化を着実に進めていく」と中屋慎二社長(写真1)は話す。

### 2.6 倍の速さで材料を切り出し

OKK テクノは兵庫県伊丹市のOKK 猪名川製造所内に本社を構える(同県豊岡市にも鋳物製品の専用工場を持つ)。メインの製造品は工作機械のスプラッシュガード(装置カバー)などの板金

製品であり、そのほとんどはOKKに納品される(写真2)。

創業は1960年で、当初は建築用の金属製フレームやその付属品の金物を製造した。1980年代に入り、工作機械に装置カバーが採用されるようになったのを機に、85年に三菱電機製のCO<sub>2</sub>レーザー加工機(以下、CO<sub>2</sub>レーザー)を導入し、スプラッシュガードの製造を本格化させた。

その後、CO<sub>2</sub>レーザーはいく度か更新され、また1997年からは2台体制とした。転機が訪れたのは2017年。親会社のOKKが工作機械の増産計画を打ち出したのがきっかけとなって、古くなったCO<sub>2</sub>レーザー1台を撤去し、新たに出力2kWの三菱電機製ファイバーレーザー加工機(以下、ファイバーレーザー)「ML 3015 SR-F 20」を導入した(写真3)。

スプラッシュガードの部品点数は1台当たり200点前後で、加工する板材の厚さは1.6~6mm(写真4)。同社の調査によると、ファイバーレーザーの場合、標準的な工作機械1台分の板材を切り出す速度はCO<sub>2</sub>レーザーのそれに比べ2.64倍の速

#### 会社概要

会社名: OKK テクノ(株)  
 代表者: 代表取締役社長 中屋慎二  
 本社: 兵庫県川西市久代 6-1-1 OKK(株)内  
 TEL: 072-758-5474  
 設立: 1960年  
 従業員数: 62人  
 資本金: 1,000万円  
 売上高: 29億円(2018年3月期)  
 事業内容: レーザ加工による精密加工製品などの受注・設計・製造



写真1  
中屋慎二社長